

ウズベキスタン共和国交流事業（民間（NPO等）主体の交流／友好・親善）

交流団体名

| 日本側 | | 相手側 | | |
|------|-------|---------|------|-------|
| 自治体名 | 交流団体名 | 国・地域名 | 自治体名 | 交流団体名 |
| 一宮市 | | ウズベキスタン | | |

交流の概要

ウズベキスタン共和国は、2005年に開催された愛・地球博の一宮市（旧木曾川町）のフレンドシップ相手国であった。万博終了後も引き続き交流を推進するため、一宮市では市国際交流協会と連携して交流事業を行っている。具体的には名古屋大学のウズベキスタン人留学生に協力していただき、市内の小中学校を訪問してもらい交流と国際理解を深める事業や、名古屋大学の短期留学生のホームステイ受け入れ事業などを行っている。また、留学生が各種国際交流イベントに参加するなど、積極的に市民と交流をしている。



【「ふれあいウォーキング」ウォーキングを通じて市民と交流するウズベク人留学生】



【市内の小中学校でウズベキスタンの文化についての理解授業を行う留学生】

今後の展望・課題

ウズベキスタン共和国は、私たち日本人にとってなかなかなじみの薄い国だが、地道な交流を続けることによって、市民の認知度は高まり、交流が深まってきた。今後も現在行っている事業を継続発展させるとともに、市民が主体的に交流にかかわることができるよう、事業を展開させていきたい。

優れた特色

ウズベキスタンという比較的接点が少ない国との交流について、愛・地球博というイベントを一過性のものにせず、留学生を中心とした市民レベルでの地道な取組を継続している。